

10 農 業

(1) 農家数・経営耕地面積

2020年農林業センサスにおける総農家数は12,103戸で、総世帯数の14.3%、主業経営体数は専業農家は1,502戸（農家数の12.4%）と県計の主業経営体数率を2.9%上回っています。また、準主業経営体数は612戸（同5.1%）、副業的経営体数は3,773戸（同31.1%）、自給的農家は6,263戸（同51.5%）です。

経営耕地面積は10,961haで、田は3,679ha、畑6,917ha、樹園地365haとなっています。農家一戸当たり経営耕地面積は91aで、県平均を20a上回っています。耕地は標高550m～1,500mにかけ広く分布しています。

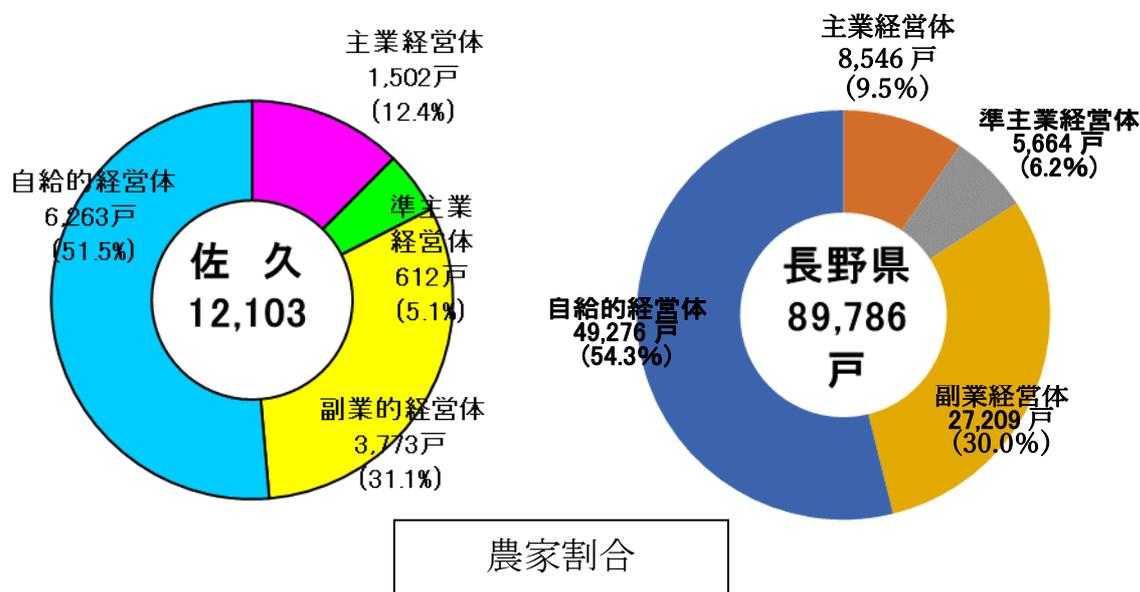
※経営耕地面積は、農業経営体が所有する経営耕地面積を示す。

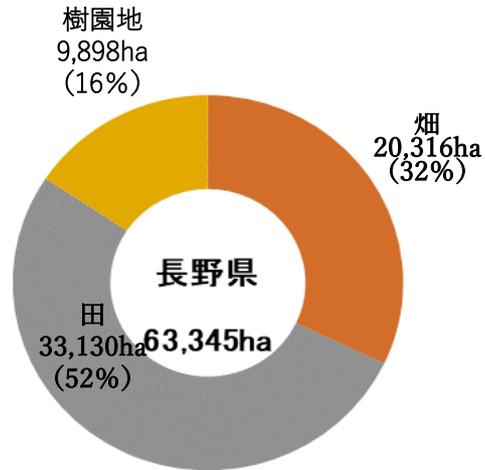
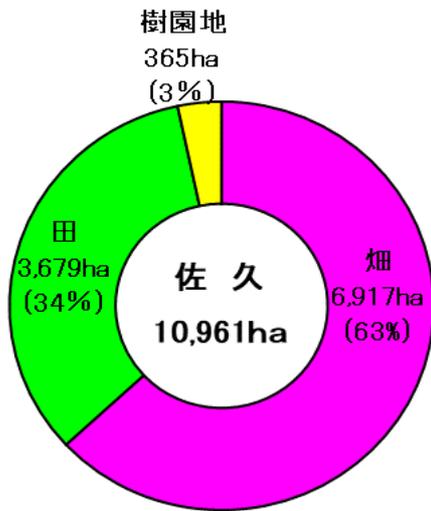
○ 市町村別農家戸数及び経営耕地面積

（単位：戸、ha）（令和2年）

区分	農家数	主業 経営体数	主業 経営体率	経営耕地 面積	内販売農家経営耕地面積				1個当たり 経営耕地 面積 (a)
					畑	田	樹園地	計	
小 諸 市	1,983	184	9.3%	1,366	791	486	90	1,366	69
佐 久 市	6,017	306	5.1%	3,449	900	2,426	123	3,449	57
小 海 町	358	56	15.6%	343	320	21	2	343	96
佐久穂町	1,048	73	7.0%	491	237	228	27	491	47
川 上 村	522	420	80.5%	1,770	1,757	13	0	1,770	339
南 牧 村	337	213	63.2%	1,433	1,425	8	-	1,433	425
南相木村	115	31	27.0%	95	95	0	-	95	83
北相木村	95	19	20.0%	84	78	4	1	84	88
軽井沢町	222	28	12.6%	775	748	23	3	775	349
御代田町	559	104	18.6%	516	438	75	3	516	92
立 科 町	847	68	8.0%	639	128	395	116	639	75
管 内 計	12,103	1,502	12.4%	10,961	6,917	3,679	365	10,961	91
県 計	89,786	8,546	9.5%	63,345	20,316	33,130	9,898	63,345	71
県 対 比 %	13.5%	17.6%	-	17.3%	34.0%	11.1%	3.7%	17.3%	128.4%

（注）2020年農林業センサスによる。端数処理のため計と内訳が一致しない場合がある。





主業経営体耕地面積割合

(2) 地域別農業の特色

区分	市町村	特色
南部高冷地帯	川上村 南牧村	<ul style="list-style-type: none"> 野菜専作及び野菜と畜産（乳用牛、肉用牛）の複合による土地利用型農業地帯 野菜はレタス・はくさい・キャベツ等を主体とした全国屈指の産地 農業後継者が定着している
南部中山間地帯	小海町 南相木村 北相木村 佐久穂町（旧八千穂村）	<ul style="list-style-type: none"> 高原野菜とキク等の花きを中心とした園芸地帯 肉用牛（繁殖）、乳用牛、豚の飼育地帯
浅麓準高冷地帯	小諸市 軽井沢町 御代田町	<ul style="list-style-type: none"> 浅間山麓は高原野菜の産地であり、レタス・はくさい・キャベツの他、ブロッコリー・チンゲンサイ等の生産が盛んな園芸地帯 豊富な草資源を活用した乳用牛の飼育地帯
佐久平坦地帯	佐久市 （旧佐久市・白田町・浅科村） 佐久穂町（旧佐久町）	<ul style="list-style-type: none"> コシヒカリを主体とした県下有数の良質米生産地帯 キク・カーネーションの古くからの産地 果樹は、りんごの新わい化栽培の導入を推進しているほか、プルーンの主産地 豊富な水資源利用による、佐久鯉・ニジマス・シナノユキマス等の養殖が盛ん
川西丘陵地帯	佐久市（旧望月町） 立科町	<ul style="list-style-type: none"> キャベツ等の高原野菜の産地 りんごは品質に定評のある主産地 大規模な団地による肉用牛・豚の飼育地帯

(3) 農産物産出額

令和2年の農産物産出額は552億円で、作物別の構成比は、野菜60.8%、畜産24.7%、米穀類13.5%、きのこ7.9%、果樹3.6%、花き3.1%の順になっています。

○ 作物別産出額

(令和2年)

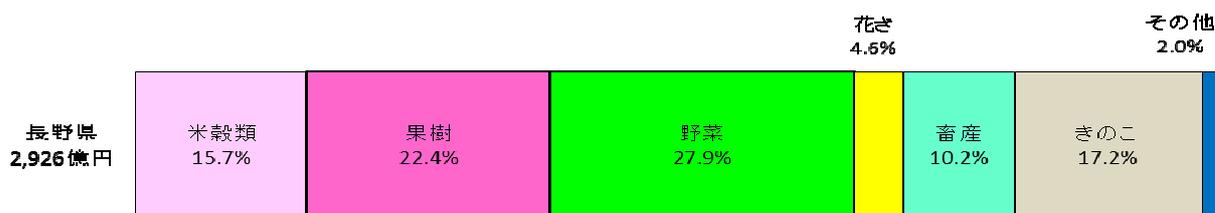
区 分	佐久の産出額			長野県の産出額		
	(億円)	構成比 %	対県シェア	(億円)	構成比 %	
農畜産物	米穀類	62	10.8	13.5	458	15.7
	果樹	21	3.6	3.9	656	22.4
	野菜	350	60.8	42.0	818	27.9
	花き	18	3.1	13.1	134	4.6
	畜産	73	12.7	24.9	298	10.2
	きのこ	51	8.9	7.9	503	17.2
その他	1	0.2	1.5	59	2.0	
合 計	576	100	19.3	2,926	100	

出典：長野県農政部推計による。端数処理のため計と内訳が一致しない場合がある。

◆佐久農産物産出額（R2）



◆長野県農産物生産額（R2）



出典：長野県農政部推計値

(4) 第3期長野県食と農業農村振興計画 ～佐久地域の発展方向～

夢ある未来にチャレンジ!! 健康長寿の里で広げる佐久農業

佐久地域がめざす農業の姿

I 次代へつなぐ佐久農業

- 新規就農者や定年帰農者等多様な担い手の確保・育成が進み、消費者ニーズの高いオリジナル品種等の生産が拡大して産地の再興とブランド化が図られています。
- 夏秋期のレタスやはくさいの生産量が引き続き高い全国シェアを占める「責任供給産地」として収益性の高い農業が展開されています。
- 県下有数の米作地帯として、大規模稲作経営体や集落営農組織への農地集積や集約化が進み、競争力の高い水田経営が展開されています。
- 基幹的水利施設の補修・更新、高品質な生産に資する基盤整備が行われ、農業生産を支えています。

II 消費者とつながる佐久の食

- 佐久地域で生産される農畜産物が、地域内のレストランやホテル等で利用される「地消地産」が進み誘客資源としての「食」の評価が高まっています。
- 長寿地域である佐久の食文化が次世代に継承され、健康・長寿の食生活の実践が進められています。

III 人と人がつながる佐久の農村

- 定年帰農者や都市住民の参画により、持続的な農村コミュニティ活動が展開されています。
- 地域ぐるみの協働活動により、農業の持つ多面的機能の維持や活力ある集落が維持されています。

【重点的な取組方向】

重点施策	主な推進方策
次代へつなぐ意欲ある担い手の確保・育成	市町村の実情に応じ、就農相談、研修、農地・施設・住宅の斡旋等による果樹・花きの新規就農者の確保・育成を支援
夏秋期野菜の安定供給と責任産地としての生産流通体制強化	需要に応じた葉野菜の計画生産と難防除病害や気候変動に対応する栽培技術の向上
強みを活かした競争力の高い水田農業・畜産の振興	水田フル活用と耕畜連携による多様な作物生産の振興 水田経営の複合化と生産コスト低減による経営体質の強化
農業を支える基盤整備の推進	水利施設等の機能診断を行い、農業に不可欠な用水を確実に確保するなど、農業生産基盤整備の推進
地域食材の魅力を伝える地消地産と食育の推進	農産物直売所を核とした小ロット流通体制の構築 ホテル、旅館等で使われる食材の地域産への置き換えによる利用促進
多様な人材による農村の活性化	農業・農村の多面的機能の維持や農村コミュニティの活性化に向けた地域ぐるみの協働活動への支援

【主な達成指標】

指標項目	2016年	2022年
○果樹・花きの新規就農者数	4人	8人
○果樹・花きの産出額	45億円 (2015年)	45億円
○春・夏秋期葉野菜の指定産地出荷量の維持	327,279 t	327,279 t
○鮮度保持機能向上を行う施設数	0施設	5施設
○新規需要米等の作付面積	200ha	260ha
○酪農家1戸当たり飼養頭数	67頭	72頭
○重要な農業水利施設の整備箇所数	0か所	7か所
○新たに地元食材を供給する宿泊施設数	0施設	20施設
○食育等に関わる運営組織の連携数	0組織	5組織
○地域ぐるみで取り組む多面的機能支払等取組面積	3,945ha	5,438ha
○定年等帰農者数	16人	76人